

## 平成 28 年度 第 1 回磐田市立図書館協議会会議録

1 日 時 平成 28 年 6 月 1 日（水） 午後 3 時から午後 4 時 40 分まで  
2 場 所 磐田市立中央図書館 2 階会議室  
3 出席者 委員：青島公悦、兼子修美、川倉悦子、浅羽浩、鈴木正善、平野富美子、  
山中光枝、松野正比呂、原田緑、寺田美津子（以上敬称略）  
（事務局等）  
村松啓至教育長  
中央図書館：伊藤八重子館長、伊藤篤和館長補佐、伊東直久主幹  
松本栄一囑託  
福田図書館：大津直久館長 竜洋図書館：高尾純男館長  
豊田図書館：永田幸義館長 豊岡図書館：石川純一館長  
学校教育課：袴田美穂指導主事  
4 傍聴人 0 人

内 容 以下のとおり

### 議題（1）平成 27 年度事業報告及び平成 28 年度主要事業概要について

（事務局）

平成 27 年度事業報告及び平成 28 年度主要事業についてご説明いたします。着席のまま失礼します。

始めに、平成 27 年度事業報告ですが、本日の資料 2 ページからお願いします。

1 の開館日数につきましては、平成 26 年度は豊田図書館において天井耐震補強工事期間内に、展示室等での一部開館対応もいたしましたが、完全休館の期間がありましたので、平成 26 年度よりも平成 27 年度は開館日数の増となっています。

2 の利用状況につきましては、豊田図書館が前年度に比べて増加、豊岡図書館がわずかに増加、竜洋図書館が減少、福田、中央図書館がわずかに減少となっています。これは、平成 26 年度に豊田図書館においては天井耐震補強工事の影響により大幅な減であったため、平成 27 年度は平成 26 年度に比べると増加しています。この豊田図書館の工事の影響で平成 26 年度に増加した中央図書館と竜洋図書館は平成 26 年度に比べて減となっています。

新たな利用登録者としては、3,515 人が図書館カードを新規に作成していただきました。入館者数は 5 館合計で 615,588 人、貸出利用者数は 347,693 人、貸出点数は 1,324,681 点です。事業報告の詳細資料の 5 頁の をご覧ください。3 の貸出状況につきましては、貸出資料の内、一般書は 625,405 点、児童書は 555,204 点です。一般書の貸出数は昨年度に比べて 15,336 点の減でしたが、児童書は 32,111 点増加しています。館ごとの資料別貸し出しでは、豊田図書館と豊岡図書館が一般書よりも児童書の貸出が多い状況となっています。4 の資料の所蔵状況につきましては、豊田図書館においては、閉架書庫の資料の整理を実施したため、資料数は前年度よりマイナスとなっています。

次に 4 ページの館内サービス状況ですが、所蔵予約、リクエストを合わせて 120,042 件で

した。この内、来館予約は減少しインターネットによるWEB予約が増えている状況にあります。事業報告の詳細は統計資料の9頁の に掲載があります。WEB予約が83,003件と、昨年度に比べて5,206件増えています。また、ホームページのアクセス件数も増加しています。

5頁のその他事業のうち、おはなし会は5館全体の開催回数は増えていますが、参加者は昨年度に比べて残念ながら若干減少しています。

最後に6頁の の展示室への入場者数は中央図書館が38,223人と前年に比べて1,402人の増加、豊田図書館においては8,881人と、H26年度の工事の影響もありますが、前年度より3,705人の増加となりました。磐田市の図書館は合併以来1,000人当たりの貸出点数は県内において第2位と市民の皆さんの利用は大変活発な状況ですが、公共図書館は貸出点数だけを求めるのではなく、地域住民の生活を支援する「地域の知の拠点」であり、また、地域の中の「ひろば」として居場所の役割も果たしています。ゆったりとした読書の時間や鑑賞の時間を楽しむ、居心地の良い空間の提供を大切にしたいと感じています。

次に7ページの(2)の平成28年度主要事業についてですが、基本方針と運営方針は、平成27年度までの方針を継続いたします。また、重点事業としては、図書館サービスの充実、業務の効率化、施設の維持管理の3点を重点に、5館によるネットワークを最大限生かした図書館運営を図ります。そして、社会の変化に対応した新たなサービスについて研究し、市民にとって快適で利用しやすい図書館をめざします。

平成28年度は、図書館システムの更新時期であり、これに合わせてホームページの改善や資料検索機能の強化、データの整理等を実施します。後ほど、管理グループ長よりシステム更新についての状況報告をさせていただきますが、インターネット環境を本庁から切り離すことを求められており、インターネット環境の構築も必要です。また、地域資料の電子書籍化を進め、その公開方法についても検討していきたいと考えています。具体的には7ページから8ページに記載のとおりです。この内、新規取組としては、子ども読書活動推進事業として、後ほど図書グループ長より詳細説明をさせていただきますが、「磐田市子ども読書活動推進計画」の第2次計画の「成果と課題」の検証結果の公表と、第3次計画の策定・公表をしていきます。また、視覚障害者サービス事業の中で、音訳ボランティアさんが中心となって、図書館で作成したカセットテープの資料をCDに変換する編集作業を実施します。これは、資料の保存と活用の目的で、専用のプレクストークというソフトを使っての作業を実施していく予定です。また、静岡文化芸術大学から講師の先生をお招きして、ユニバーサルデザイン絵本作製講座を実施します。当日は点訳ボランティアさんの協力を得て、点字についても学べる講座にしたいと考えています。

また、図書館施設活用事業の中で、豊岡図書館において、松下文庫講演会を開催します。豊岡図書館の松下文庫には松下大三郎博士の資料はもとより、豊岡地区に関連した方々の著作なども保管されています。この中には、平成29年1月からNHK大河ドラマで放送される井伊直虎を題材にした歴史小説「女(おなご)にこそあれ次郎法師」という磐田市新開出身の作家梓澤要(あずさわ かなめ)氏の作品もあります。梓澤要氏を講師に招き、井伊直虎に関わる講演をしていただく予定です。

最後に、後ほど豊田図書館長より詳細説明をさせていただきますが、(仮称)子ども図書館設置事業として、今年度は基本構想を策定していく予定です。簡単ではございますが、以上です。よろしくお願いいたします。

<質疑・意見>

なし

## 議事2、子ども読書活動推進計画について

(事務局)

子ども読書活動推進計画の説明をさせていただきます。子ども読書活動推進計画は平成13年に制定されました、子どもの読書活動の推進に関する法律を基に国で策定された基本計画を受けて静岡県において策定された第1次計画に基づき、本市では平成18年度に制定されました。その後、継続して子どもの読書活動を推進するための基礎としているものです。前回協議会におきましては、中間報告をさせていただきましたが、今回は2次計画の期間が満了したことを受けまして、2次計画の報告、3次計画の案につきまして提案をさせていただきます。

まず、2次計画の成果と新たな課題について、いくつか報告をさせていただきます。2次計画の成果と評価につきましては、磐田市子ども読書活動推進計画第2次計画成果と評価の印刷物にあります。重点取り組み等数値目標については、16ページに記載がございます。主な成果としては、ブックスタートの参加率が5年間の平均値であるが目標値を達成している点、また、小中学校の司書教諭の配置が実現できたことです。小中学校の専門職員の配置ができたこと、また、児童図書の貸出し冊数の目標値を達成している点などです。主な課題は、図書ボランティアをはじめとする子ども読書に関わる人材育成や各種団体の実情の把握や連携するための体制づくりが課題と認識しております。

次に小中学校の現場では図書行事の達成や年間指導計画の作成など学校ごとに事情がありハードルが高いとのこと。近年の課題として、情報セキュリティの強化によりインターネットの利用が容易ではなくなったことがあげられています。また、読書の量のみならず質を高めていかなければならないという現場の考えを実現するための施策の検討も認識されています。成果と評価は持ち帰りご覧ください。

引き続き、平成28年度からの5か年の第3次計画の案を説明します。これまでの計画同様、国の計画、県の計画を参酌し、今後5年間の取り組みと目標値を定めてあります。2ページをご覧ください。計画の基本方針として、読書機会の提供、読書環境の整備と充実、読書活動の普及と啓発といたしています。県の計画と同じ基本方針となっております。県の計画では、読書環境の整備、読書機会の提供、読書活動の啓発等の施策を家庭、地域、学校など社会全体で取り組むこととなっております。

次に磐田市の計画ですが、全体の目標としては、本を読むことが好きだと答える児童生徒の割合が80%以上と掲げ、子どもが取り巻く家庭、地域、学校、幼稚園など就学前の施設など社会全体で取り組むことを方針としております。イメージ図は、子どもと保護者を中心に、主に家庭で取り組むこと、学校や地域が取り組むこと、これらを表現し、各家庭で取り組ん

で欲しいことを表記してあります。これにより、子ども自身と保護者自身の読書活動を地域と学校等で支援して行くというイメージです。計画の策定の方針としては、磐田の教育、道しるべ、磐田市子ども憲章、教育大綱の理念を踏まえて、子どもたちの思考力、判断力、表現力を養い、豊かな人間性を醸成することを目標としています。簡潔で分かりやすい表現とし、既存の取組の見直しや、新しい取組の試行がしやすいようになっております。内容について、家庭や地域、学校等それぞれの場面での現状と課題を記載し、推進のための取り組みとし何に取り組むのかを表記しております。

最後に主な実施事業として、どのように取り組むのかを作成しています。今回3次計画で新たに加わった項目として、図書館の拠点整備としまして、(仮称)子ども図書館の設置が加わっております。他にブックスタート事業や茶の間ひととき読書運動など改善を加えながら今後も取り組んでいきたいと考えています。2次計画での課題として、ボランティアの育成や学校課題としては、学校や未就学児施設、交流センターなどが互いに連携し読書活動をサポートし計画していきます。また、外国籍や障害のある子どもたちの支援も関係者の情報交換を密にして取り組んでいきたいと考えています。

この計画の今後の予定ですが、7月にパブリックコメント、定例教育委員会に提出を予定しています。最後に表紙のイラストは、ブックスタートで参加者に配布する布製バッグの図柄です。福田地域で作られている布地を活用したものです。説明は以上です。

#### < 質疑・意見 >

今年度から司書リーダーが増え、助かっている。6名が10名になり、ありがたい。

学校との色々な問題もあるようですが。

図書館と連携し学校で不足しているものもあり、現場同士の意見交換が大切と考えています。

就学前の児童との関わりが多いため、ブックスタート事業が80%以上を目指すことは進めていただきたい。

学校図書館の蔵書が十分でないがあったが、1か月の読書冊数は、小学校、中学校とも一応目標冊数は達している中で、今後各学校で同じ本を所蔵することは難しいと思うのですが、具体的な検討として、学府の中で計画はあるのでしょうか。

学校教育課から目標値をいただいています。学府についても、今年度から司書リーダーも増やして対応を行っている。

今年度10名の司書リーダーの配置をし、各学府に1名配置された。各学府の色を出したものにしていきたい。内容は、今後研修会等を持って決めていきたい。

ブックスタートの現物を見せていただいて、親の立場ならもらったらワクワクするなあと思いました。磐田市の子供たちは、本を読むことが好きだという子どもが平均より低いと言われ、10%くらい低いと言われている。そのためにどのような具体的なことをして行けば良いかを考えて欲しい。これまで子どもたちが図書館に行ける時間が限られていた。行けるのは昼休みだけだったが、そこに司書リーダーがいることは進歩だと思う。各学校の自助努力と言われたが、情報の交換をするだけでも良い。それぞれの学校が具体的なものを作っていただくようにしていきたい。

計画にはあるが実現されていないこととして、司書の研さんとなっているが、今年度、児童担当は無資格です。研さんを重ねないといけない。個人攻撃はしないつもりですが、簡単には務まらない。県内の司書は勉強をしている。今の磐田の図書館は後退にしか思えない。小さい子どもがどのようにしていくのかを目の当たりにするのが司書冥利に尽きる。一番大事なことをないがしろにはいけない。読み物リストを司書は知っているか。次にどんな本があるかを伝えることが司書の仕事です。図書館の人が育たなければ、子どもに本を渡しましょうということは難しいことです。

人事に関しては図書館や教育委員会だけでは解決しませんが、できることはやっております。職員を育てる意識を持っています。

図書館ボランティア講座は本来は図書館司書の仕事だと思います。できないではなく、図書館内で研さんして誰でもできるようにして欲しい。

正規も嘱託職員も自己研さんをしております。機会を与えるようにしていきます。

学校現場で朝読書が入ってきた頃と変わってきた。全国学力調査で国語が全国で最下位があり、その頃から、毎朝のように朝読書していたが、週5回の読書を3回にしてみるとかになった。また、職員の勤務は8時が8時15分勤務になった。掃除すらできない。精一杯やっている中での小学校の69.7%の状況がある。また、蔵書が古くなってきている。図書室に行くかは蔵書が古いこともあるが、低学年は時間がない。どうやって子どもたちに読書に目を向かせるか意識を高めるかがテーマです。上昇曲線にはなりづらい状況です。

学校現場の話聞いて、中々大変な目標値を設定されている。しかし、読んでもらうためにはどうすれば良いか。それには保護者の姿勢に目を向けないといけない。それとペーパーの本、紙の本を読むこと。東京の電車では10人中8人はスマホをやっている。もっと活字を読み、その中で思いを発想させていくことが大切だと思います。そのようなところを保護者が子どもたちに見せる活動も図書館の任務ではと考える。

図書館の姿勢として、数値的では、現状では7割行かないところを8割を目指そうとしたことは、意気込みと捉えていただきたい。

4月23日が子ども読書の日だが、どうして4月なのか。4月は年度変わり先生方は忙しい。何とかならないのかと思う。それと、こちらに引っ越して5年経っていないが、児童図書担当が3人変わった。図書ボランティア講座の講師をやらせてもらうが、それは本来職員がやるべきことだと思う。お母さんが疑問を持った時、その時に私はいない。市は職員を育てる気があるのか。児童書のプロを育てる、専門職を育てる姿勢を是非お願いしたい。

読書週間について図書館の取組は各館ごと記載してあります。学校はどのような取組をしているのかを学校教育課の方で集約をしてもらいたい。

貸出し数でなく質だと、この前の協明子さんの講演会でもあった。統計では小学校では読書量が多い子どもが中学、高校、大学になると少なくなっている。質の良い本との出会いをさせてあげるのが児童図書の図書館員の仕事なので、質の高い図書館員を育てることをお願いしたい。

### (3)新図書館システム更新状況について

(事務局)

磐田市の図書館システムは5年を過ぎております。更新をせざるを得ない状況です。プロポーザルで3社の参加表明があった。5月25日にプレゼンテーションを行い、株式会社静岡情報処理センターに業者選定がされました。今後はリース契約を行っていきます。昨今の電算の進歩が激しい。ウィンドウズをセブンからエイトに変えていく。また、インターネットの環境も厳しくなっている。インターネットでの接続がないと不便。市のシステムと切り離して使っていく。また、デジタル資料の公開も行っていく。10月から新システムとなる。

<質疑・意見>

なし

#### (4) (仮称) 子ども図書館設置事業進捗状況について

(事務局)

概要を説明いたします。構想策定をすることで今年、予算を付けていただきました。委託料300万円です。業者の選定方法、仕様について庁内の合意ができました。子育て支援課や建築住宅課、契約検査課などです。6月10日にプロポーザルの公告を行いたいと思っています。目的、事業概要としては、子育て支援機能と図書館機能を兼ね備えた複合施設に生まれ変わらせたいというものです。現有施設と外部の導線の見直しや、駐車場からの導線の見直しなども行う予定です。一般的な子ども図書館の概念にとらわれず、気軽に子育て相談ができ、滞在型でリラックスできる空間を提供したいと思います。ついては、業者のアイデアをいただいて進めていきたいと思っています。

豊田図書館は市内の中心で、アクセスが良い施設です。実績でも児童書が一般書より沢山借りられています。また、面積が2,700㎡あり、複合施設としてリノベーションするためには十分な面積です。場合によっては2階部分の手直しもしたいと思っています。対象者は乳幼児から中高生までを想定しています。図書館機能は、児童書以外にも実用書も置きたいと考えています。子どもの泣き声が気になり図書館に来られない方にも、泣き声はBGMとなるような、利用しやすい図書館となればと考えます。

子育て相談機能としては、助産師、保健師、ソーシャルワーカーなどを配置して、直ぐに対応できる、包括的な子育て相談センターを目指します。ハローワークのマザーズコーナーなどともタイアップをできればとも聞いています。また、ふれあい機能として、子育て支援センター的機能も考えています。

更に、空調設備も経年劣化につき、大規模な改修を同時に行いたいと考えています。改修のスケジュールですが、公告を6月10日、7月一杯までに提案書の受付をし、8月に1次選考、2次選考でプレゼン・ヒアリングをして業者を決定し、9月の終わりには構想策定委託に入り、約5か月くらいで成果品を完成させたいと思っています。次回の図書館協議会には、最終段階の成果品をご提示したいと思います。現段階では、来年度に基本設計、実施設計を行い、再来年度に改修工事、その翌年度の4月に供用開始を考えています。

そして、市民の皆様の意見聴取の場として、市民懇話会を立ち上げたいと思っています。図書館協議会の委員、子育てサークル、地元の利用者なども自治会と相談しメンバーを出し

ていただきたいと思っています。委託が始まって直ぐに1回目を、その後中間に2回目を開催し、自治会等への説明も遅くとも11月から12月の間に開催したいと思っています。

つきましては、協議会委員から懇話会委員を2名ほど選出していただけるとありがたいです。

< 質疑・意見 >

基本構想を策定していく中で、市民懇話会が持たれるとのことで、本協議会から2名の選出依頼がありました。私の立場としては、鈴木正善さんと山中光枝さんをお願いしようと思いますが如何でしょうか。よろしければ拍手をお願いします。

内々にお話しを受けて、前回の会議で地元の応援が必要と発言をした手前、私になったのでは。

豊田の図書館は、歴史があり、地元の年齢の高い方々の利用が多い。旧磐田の図書館は在住勤の方しか利用ができなかった。それで旧豊田の方々は自分の所に図書館をとの気運が盛り上がり、あの図書館ができた。自分たちが作り上げてきた図書館を大事にしている方が多くいる。その方々にどのように説明するのか。勿論、子どもは大切に、子ども図書館を作ることには反対ではないが、一般書は置かないのか。蔵書構成はどうなっていますか。

一般書は、現時点では予約配本サービスを豊田地区の交流センターと連携で行うことを考えています。実用書は広い言葉ですが、気軽に読める本は置きたいと考えます。0門から9門までの配架ではないが、暮らしに密着した実用書を置いていきたい。

ヤングアダルトは置いて、大人の本はないということか。

これから策定していく、決定事項ではない。方向性としては、一般書との切り分けは当然出てくる。私見ですが。

子どもに特化した図書館ができると思っていたが、子育て支援に力が入り、図書館機能が横に行ってしまう恐れがある。子育て支援は他でもやっている。子ども図書館はどういう特色を目指していくのかははっきりさせていく方が良いのでは。図書館機能が上手く機能しないのでは。

子育てとの相乗効果を狙う。今まで図書館に行ったことのない親子連れも新たな図書館利用者になっていただきたいという思いです。

職員が上手く橋渡しをコーディネートするようにしてもらいたい。

子育てに関し、どこかが突出し、そこに引きずられるようになることが心配です。それから、迷惑だから、うるさいと言われない施設にしようということは疑問です。ここはうるさくしても良いと思っはいけないのでは。公共の場として、静かにしないといけないと教えることも大切では。読書がなおざりにされてしまわないようにしないと。

乳幼児を抱える母親から敷居が高いという意見があり、敷居を低くしたい思いがある。当然、公共施設なので、ソフトにマナーは伝えるべきと思っています。

毎月、子育て支援センターへ行くが、母親は、そこは危なくないと思っている。至れり尽くせりがどこまで良いのか。もっと楽なところできたとなって良いのか。イベントとして使われては駄目では。都合の良い施設ができたことで、つまんなくなる高齢者が出てくる。高齢者の居場所がなくなる。子どもと言うととっても良いことと思われるが。

行政が考えていることは違う観点もあるのでは。この話は懇話会でやっていただいて、業者に取り入れてもらえば。子育てサークルや地元の代表の方なども入るので、その場で議論をしていけば良いのでは。

懇話会を開催しながら業者にまとめていってもらおう。

磐田の図書館を作る時に業者と話を進めていった。そういうことか。

業者も一緒に懇話会に出ます。

私もその場所で発言をしたい。

山中さんと鈴木さんに頑張ってくださいようお願いします。

## 連絡事項について

(事務局)

前回の図書館協議会で学校に対する団体貸出について委員より要望が出されました。その件について、事務局より連絡がございます。

学校への団体貸出しについて、前回要望を伺っている。図書館ごとに足を運んでいただく必要があり、1館で貸し出しができないか要望があった。学校司書との打合せに実務担当者も出席し、結果、返却は1館でまとめてお受けすることになりました。ただ、貸出しは、一つの館で手続きをすると、予約処理をすることとなり、各学校間での本の予約のし合いになり、必要な時に必要な本が重なります。団体貸出しは通常より期間が長いので、子どもたちの手元にある時間が短くなってしまいます。このため、貸出しは各図書館に足を運んで選んでいただき、現にそこにある本から選んでいただきたい。そのように市立図書館としては考えています。そのままでは解決に至らないということもあり、学校司書リーダーや支援員と協力をして、学府ごとで融通できないか今後の検討材料とさせていただきたい。

< 質疑・意見 >

今の回答を文書でいただけるか。6月に研修会がある。その中でお知らせする。

実務担当が出席して意見交換をしたい。

袋井地区と合同の会議なので、取りあえずいただきたい。

文書にまとめて回答します。

(事務局)

前回の図書館協議会で磐田市立図書館と静岡産業大学図書館における相互協力に関する覚書について協議していただきました。静岡産業大学図書館の資料の返却を磐田市立図書館においても受け付けることで、4月1日より施行されることとなりましたので、ご報告いたします。産業大学の本を市立図書館へ返却することができるようになりました。実績はまだありません。

11月7日(月)に静岡県図書館大会が開催されます。毎年、委員の皆様にも参加をいただいておりますので、今年も是非ご参加ください。開催近くになりましたら、再度ご案内いたします。

第2回協議会は、来年2月に開催を予定しておりますので、よろしく願いいたします。